

【都筑区】令和7年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年2月3日（月）13:00～14:35
場 所	6階大会議室
出席者	<p>【座長】長谷川琢磨 議員</p> <p>【議員：4名】市来栄美子 議員、磯部尚哉 議員、白井亮次 議員、深作祐衣 議員</p> <p>【都筑区：29名】佐々田賢一 区長、落合明正 副区長、増山敬太 災害対策担当部長（都筑消防署長）、中山昭 福祉保健センター長、浦崎真仁 福祉保健センター担当部長、藤井由貴 福祉保健センター医務担当部長、小島淳 都筑土木事務所長 ほか関係職員</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算案について 2 報告案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 都筑区制30周年の取組について (2) GREEN×EXPO 2027の機運醸成の取組について 3 その他
発言の要旨	<p>1 令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>【まちづくり総合調整事業】</p> <p>白井議員：都市計画マスタープラン都筑区プランの改定のスケジュールを教えてほしい。</p> <p>橋本区政推進課長：今年度は現行区プランの事業の進捗状況の確認や事例調査などを行っている。それを踏まえて来年度以降は、都市整備局からの指示に従いまちづくりの方針について検討していく予定。</p> <p>白井議員：改定にあたり、関係者等とどのように話し合いを行うのか。</p> <p>橋本区政推進課長：改定案を提示した上で市民意見募集を行うことなどの方法が考えられる。地域の声をどのようにお聞きするかは、今後都市整備局の方向性も確認した上で検討していく。</p> <p>白井議員：福祉のまちづくり条例では、合理的配慮が行政や事業者の責務となっている。それも盛り込み、高齢者にも若者にも住みやすいまちづくりをしっかりと考えてほしい。また、緑道についても対応を検討し、改定プランを作成してほしい。</p>

【(局事業) 地域図書館・図書取次業務委託事業】

磯部議員：3月に始まる図書取次所において、ポポラサテライトと具体的にはどのように連携するのか。また、周知はどのようにするのか。

大谷読書活動推進担当課長：連携については、図書取次所の運営を業務委託で行う中央図書館を中心に、近隣の図書館も一緒になって企画内容を検討している。図書取次所とポポラサテライトそれぞれの施設の利用促進や、図書サービスに触れる機会の充実につながることを考えている。

広報については開設に伴う記者発表のほか、広報よこはま区版や図書館のウェブサイト、SNSの利用、ららぽーと横浜へのポスターの掲示等を予定している。

【(再配当事業) 自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業】

磯部議員：3か年計画の事業であるが、5年度、6年度の成果は何か。

須藤地域振興課長：様々な取組の中で、地域活動団体同士の連携や、地域活動団体と自治会との連携を考えてきた。その中で地域活動団体によっては自治会と結びつきやすい団体もいることが分かったので、7年度は地域活動団体と自治会町内会を結びつけるマッチングをまちづくり交流会として取り組む予定。自治会町内会へのアドバイザー派遣については7年度も引き続き実施する。また、都筑区で実施していた集合コンサルティングは、市民局が実施予定。

【安全・安心なまちづくり事業】

磯部議員：区内で押売のような被害を聞くが、区で把握しているのか。

須藤地域振興課長：消費生活総合センターから出しているチラシを区民の方々にお知らせしている。また防犯情報メール（＝消費生活情報メールマガジン『週刊はまのタスケ・メール』）を活用して登録者にお知らせしている。

【多様性にあふれるまちづくり推進事業（DEI 推進事業）】

磯部議員：区内に外国籍の方は増えているのか。また都筑区の国際交流ラウンジでは、どのような取組がされているのか。

須藤地域振興課長：外国籍の方が劇的に増えているとは把握していない。
外国籍の方への支援は、例えば日本語教室や国際理解教室を実施している。

【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業】

深作議員：今回、新規で外国人の方々に対する支援が多いのが特徴と見受けられる。何かきっかけがあったのか。

上田こども家庭支援課長：子育て関連分野における視点にはなるが、外国につながる子育て世帯は少しずつ増えている。当事者から、実効性があり直ちに使える子育ての情報がなかなか取得できず、例えば保育園や幼稚園に入るための申請時期を逃してしまった等の困りごとがあるとの声が聞かれた。そのため、来年度はこのような情報誌を作成したいと考えた。

【災害時にそなえる自助・共助の推進事業】

深作議員：防災についても、外国人の方々の知識や理解を促進するのは大事だが、周囲の日本人の方々にも、外国人の方々が難しさを抱えているということを理解してもらうための取組が必須と思う。

地域防災拠点の運営支援について、女性の視点から備品を配置するとあるが、どのような方に意見を聞いているのか。

江口総務課長：地域防災拠点運営委員会の委員長のうち4人が女性なので、どのような資機材が備蓄倉庫に必要かというアンケートを行った。その中で特に要望が多かったものを今後、順次追加していきたいと考えている。

深作議員：都筑区は、子育て世代も多く、介護が必要な方もたくさんいるので、ジェンダーだけではなく、多様な方の視点を入れて備蓄品を検討いただきたい。

【(局事業) 地域の防犯力向上緊急対策事業】

市来議員：都筑区の公園は大きくて広いが、夜はやはり暗いので、暗闇の解消と公園トイレの防犯カメラの設置を考えてほしい。

また、防犯灯に関する要望も多い。闇バイトによる事件などを心配するような社会になってしまったので、防犯灯の取組に

関する意気込みを教えてほしい。

須藤地域振興課長：防犯灯については、7年度は市民局が緊急対策事業として実施する。補助率は10分の9。今まで自治会町内会の中だけだったが、それ以外の所にも幅広く使える。また、防犯灯以外でも防犯活動などに使えるので、ご検討いただければと思う。

【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業】（関連）

市来議員：都筑区はボツワナ共和国と10年以上協力してきているなど、18区の中では1番グローバルな区ではないかと思っている。グローバル教育の方向性について教えてほしい。

古橋学校連携・こども担当課長：教育委員会事務局において横浜イングリッシュシュクエスト（以下「YEQ」）など、グローバル教育に関わる様々な事業に取り組んでいる。都筑区もこどもたちが多様な外国籍の方との交流を体験したり実践的な英語に触れたりする機会の必要性を認識している。

YEQは学校教育の延長線上での実施に意義があると考えております、区の主体的な事業実施は困難だが、区の資源活用といった観点で、授業への協力や学校との連携は可能と思う。引き続きYEQの開催状況の把握に努めるとともに、局と情報共有しながら、区としてどのようなことができるかを考えていきたい。

【自治会町内会の地域運営応援事業】

長谷川議員：自治会町内会の負担軽減について、会議の進行が難しい地区があると聞いている。職員がどのような支援をしていくか考えないと負担軽減はできない。今どの程度まで負担軽減できているか。

須藤地域振興課長：市民局が来年度は地域活動推進費を増額の予定であり、その中で例えば自治会町内会のDX化や業務の一部委託化などをご検討いただく。併せて、協定を結んだ15社や冊子（「自治会町内会あれ？できるかも！デジタル時代のお役立ちアプリ・サービス集」横浜市市民局地域活動推進課 令和7年1月発行）においてDX化の取組を推薦している。

都筑スタイル事業において、地域の担い手不足を補うため

に、来年度行うまちづくり交流会において、今まで自治会町内会、地域活動団体が別々に行っていた活動をマッチングしていく。

個別の自治会町内会の定例会における進め方は特にひな形というものをつくっているわけではない。行政の関わり方も地域によって違うので、地区担当と地域の連長や会長と共同しながら進めていく。

長谷川議員：地区ごと単会ごとに地域性を見て気にしながら寄り添っていかなければ負担軽減できない。注意しながら進めてほしい。

2 報告案件

【(1) 都筑区制 30 周年の取組について】

白井議員：30 周年記念事業レガシーのベンチはどこに置くのか。

須藤地域振興課長：現在のところ、地下鉄の駅に 4 台、センター南、センター北、中川、仲町台。公園は、山田富士公園、鴨池公園、せらぎ公園、茅ヶ崎公園の 4 か所。いずれも区民の方々の目に触れる場で、なるべく使っていただける場所ということで調整している。

【(2) GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について】

白井議員：機運醸成について、都筑区らしさはどこになるのか。

橋本区政推進課長：2027 年国際園芸博覧会協会、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局、都筑区の 3 者で機運を今高めようとしている。来年度はコンテンツの認知拡大期。都筑区はかなり緑や花があふれた場所があり、維持管理をしている多くの団体があるので、そちらの皆様と連携して GREEN×EXPO 2027 の機運を高めていきたい。

白井議員：区によって緑被率等環境が違うのだから、地域の皆様の声を聞いて都筑区らしさを考え、行動、施策、表現の仕方にも盛り込んでほしい。

橋本区政推進課長：来年度、2 点新たな取組を行う予定。

1 点目は、都筑区内で花や緑の維持管理を行っている団体が活動している拠点に対してガーデン等の整備費補助や、日常の維持管理に活用できる技術の指導を受けられる講座の開催。

2 点目は、その活動拠点を活用して GREEN×EXPO 2027 の PR

を皆様にも一緒に行っていただきて、地域のインフルエンサーとして、日頃の活動内容を通じて一緒に機運を高めていけるような連携を想定している。

佐々田区長：都筑区は、GREEN×EXPO 2027 を体現しているまちと思っている。新しい概念として脱炭素と改めて言うのではなく、皆様の活動が実は GREEN×EXPO 2027 そのものだという観点で、団体の方と連携して一緒になって発信をし、活動していくということをぜひやっていきたい。

長谷川議員：資源循環局にも伝えたが、昔都筑区でも土壤混合の取組を行っていた。GREEN×EXPO 2027 という大きなイベントに合わせて我々の生活をどう変えていくか、ごみの削減など社会生活そのものの変容をどうやって目指していくのか、ぜひ来年度に向けて作戦を練ってほしい。

佐々田区長：土壤混合法や、規格外の野菜を地産地消で販売するなど、1つ1つの取組、事業に含まれている意味をしっかりと発信していく。地域の活動や資源に着目して皆様と共有する。その先に GREEN×EXPO 2027 があり、行動変容があるという理解の仕方が1番馴染むのではないか。提案を含め相談させていただければと思う。

3 その他

【令和7年度から都筑区庁舎駐車場の指定管理者変更に伴う利用料金改定等について】

白井議員：改定理由で料金体系をより利用者に分かりやすくするためとは何か。

江口総務課長：夜間最大料金は22時から8時まで最大400円という基準がなくなり、最大料金が土日祝の当日最大1100円の1本になるという点が分かりやすくなると聞いている。

白井議員：周辺の相場に合わせるということは、周辺の相場が5年前から何倍になっているのかを判断し、それに合わせて250円にしたという認識であっているか。

江口総務課長：何倍かについては指定管理者での提案なので把握していないが、近隣の相場を調査したうえで合わせたと聞いている。

備 考